神戸学院大学現代社会学部
現代社会学科

2026年度市民公開講座



映画上映
解説＆アフター・トーク

入場無料

上映作品

零下五十度の抑留者

解説（14:00-14:20）映画上映（14:30-16:00）
アフター・トーク（16:10-16:40）



アフター・トークに登壇する陳力航さんと
父・陳明亮さん

本講座では、第二次世界大戦中に日本兵として動員され、終戦後に旧ソ連軍の捕虜となってシベリアに送られ生還した台湾人の元日本兵たちの経験と記憶に光を当てたドキュメンタリー映画「零下五十度の抑留者」を上映します。また、上映前に現代社会学部の松田ヒロ子教授による解説と、上映後には本作品の出演者の一人である陳力航さんと松田教授によるアフター・トークが行われます。

事前申込制

申込フォーム→

2027年
1月9日(土)

13:45開場
14:00開始

神戸学院大学ポートアイランド第１キャンパスD号館102講義室

お問合せ：神戸学院大学現代社会学部長室
☎ 078-974-4206
gendaisyakai@j.kobegakuin.ac.jp

国境を越え、世代を超えて、戦争の影が遺した真実と向き合う

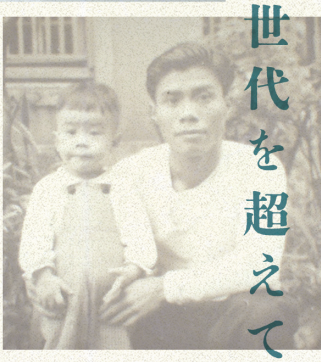


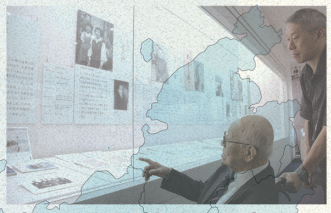
1945年、第二次世界大戦の終結とともに、日本軍として戦地へ送られていた多くの台湾人兵士たちの運命は大きく引き裂かれた。当時、およそ20万人の台湾人が日本兵として戦争に動員され、そのうちの一部は終戦後にソ連軍の捕虜となり、極寒のシベリアへ送られた。約60万人の旧日本軍兵士や民間人がソ連によってシベリアや中央アジア各地の収容所に連行され、鉄道建設、伐採、鉱山開発などの過酷な労働を強いられ、飢えと氷点下の寒さでおよそ6万人の命が失われた「シベリア抑留」。その歴史の中で「台湾人捕虜」の存在は長く見過ごされ、現在に至るまで正確な人数は分かっていない。日本人として戦い、孤独の中で生き延びた彼らの体験は、敗戦により日本が台湾を放棄したため日本国籍を失い、複雑なアイデンティティの狭間で、長く沈黙の中に置き去りにされてきた。

家族にも明かされず、凍てついたままの記憶——

本作には、現在確認されている唯一の生存者・呉正男をはじめ、台湾出身の元日本兵・陳以文、許敏信、そして、彼らが抱え続けた“空白の記憶”を知ろうとする子どもたちや孫たちの姿がある。「なぜ、戦争のことを語らなかったのか。なぜ、帰還後も苦しみ続けていたのか」。許明淳（コー・ビンスン）監督はシベリア鉄道に乗り、彼らの帰還までの道を辿っていく。また台湾、日本を巡り、残された写真や手紙、録音テープ、そして断片的な記憶を丹念に拾い集め、沈黙の奥に封じ込められた感情を掘り起こしていく。旅の果てに浮かび上がるのは、時代に翻弄されながらも確かに存在した一人ひとりの人生。「わたしたちは、一体何者だったのか」。本作はこれまで語られることのなかった声に静かに耳を傾ける。戦後80年を経た今、三世代にわたり続いてきたいくつもの傷跡と向き合うために——。



















零下五十度の抑留者

出演：呉正男　陳以文　許敏信
監督：コー・ビンスン（許明淳）
プロデューサー：リー・ジアウェン（李嘉雯）
編集スーパーバイザー：リン・シンミン（林欣民）
編集：シュエ・ジェンシュエン（薛建軒）
撮影：リン・シェン（林申）ワン・インシュン（王盈舜）

製作：多面向影像工作室　原題『冰封的記憶』
英題『Memories Frozen in Time』
日本語字幕：神部明世　監修協力：栖来ひかり
後援：台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター　配給・宣伝：太秦
【2025年 / 台湾 / 85分 / DCP / 5.1ch / 台湾語・日本語・中国語】
© 多面向影像工作室　https://memories-frozen.com

神戸学院大学現代社会学部2026年度市民公開講座
日時：2027年1月9日（土）13：45開場　14：00開始
会場：神戸学院大学ポートアイランド第1キャンパスD号館102講義室
申込方法：右のQRコードから申込フォームを送信して下さい
問合せ先：神戸学院大学現代社会学部長室 (EMAIL:gendaisyakai@j.kobegakuin.ac.jp)